

ライオン通信



<URL><http://www.kooge.jp/> <e-mail>info@kooge.jp

Vol.24 平成 17 年 12 月 10 日発行 (月刊誌)

郡家コンクリート工業株式会社
〒680-0427 鳥取県八頭郡八頭町奥谷 206-1
TEL(0858)72-1154 FAX(0858)72-1614



特集

『週刊ブロック通信』

掲載記事

週刊ブロック通信

東京都港区芝公園 2-4-9

Tel 03(3431)2811 Fax 03(3578)3450



11 月 21 日号の週刊ブロック通信 (公共事業通信社) に弊社山根が取材を受けました。今月はその記事の全文を特集してお届けいたします。

【鳥取】郡家コンクリート工業

(本社、鳥取県八頭郡八頭町奥谷 206-1、社長＝山根正樹氏・資本金 1,000 万円、URL <http://www.kooge.jp>) は、こおげ建設 (代表＝山根英明氏) の 7 つのグループ企業の 1 つとして、昭和 46 年 5 月に設立された鳥取県の中堅コンクリート製品企業だ。同社は生コンをはじめ大型までの各種コンクリート製品を手掛けているが、一般的な製品よりも地域のニーズに応えた製品の取組みに力を入れているほか、情報の発信を重視してホームページを作成すると共に、“ライオン通信”というニュースレターを毎月発行するという取組みを図っている。同社のサイトは毎月更新するという熱の入れようで、アクセス数は月に 20,000 件に達するという。これらの情報発信作業は全て山根社長自らが実務を担当して実現しているものだ。ノイズレス交流会の会員企業めぐりシリーズの第 3 回として郡家コンクリート工業を取上げる事とした。



郡家(こおげ)コンクリート工業は、昭和 46 年 5 月の設立と共に本社工場で生コンやコンクリート製品の製造・販売を始めた。平成 5 年には私都(きさいち)工場を完成して景観製品を中心にしたコンクリート製品を製造し、現在ではコンクリート製品の殆どはこの私都工場で集中的に製造している。山根社長のコンクリート製品への取組みは、一般的な JIS 製品は避け、販売面で効率の良い製品やニーズに応えた製品の取組みに力を入れている。

KOOGE-WALL は、軽くて経済性が抜群で施工性に優れている L 型擁壁だ。従来の L 型擁壁と較べて底版幅を 8~20% 小さくするなど軽量化を図り、土圧理論に改良試行くさび法を適用した新しい構造理論に基づいた考案製品だ。また PCa ガードレールの基礎製品であるプレガードや、蓋版と側溝本体をピン結合して剛性を高め、高強度コンクリートの使用により部材厚を薄くしたかんたん側溝、ノイズレス交流会に関連した HD 可変側溝などがあげられる。これらすべての製品は G ブロックと総称されている廃ガラスリサイクル製品で、鳥取県リサイクル製品使用基準適合品である。

同社の本社工場には生コンプラント一基があり、ここで使用するミキサーは 1.5m³ で、プラントは今年で 17 年目を迎えるという。しかし生コンはこのところ稼働率が悪く 50% を切るような事もある。

御社は情報発信に精力的に取り組んでいるようですねと水を向けると

山根社長は、ホームページの方はまだ成功しているとは言えないが世の中にコンクリート製品企業は多いが、ウェブサイト毎月更新しているというのは少ないし、出来ないと思う。自分でやればやるほど難しさが良く判る。社員が大勢いる大きな会社で、明日からお前が担当してやれと指示を出す事は出来ても、人に任せてやるのと、社長自らがやるのでは全く違うのです。事実大きな会社でもウェブサイトを 3 年も更新しないで、放ったらかしにしている所もある。これでは自堕落なのを世間に披露しているようなものだ。当社のウェブサイトは素人くさいかも知れないが、自分の所で更新しやすいようなタイプにしてある。2004 年 7 月から始めたもので、この 6 月の時点には月間アクセス件数が月に 20,000 件を越えた。

私共のお客さんの多くは毎日の仕事に追われて忙しくしていらっしゃるもので少しでもお役に立てばと思い、そこでライオン通信というニュースレターで情報を毎月発信している。このニュースレターはこれまで色々な事柄を取上げてきたが、例を上げると海外コンクリート製品事情や高知県の工学博士 右城猛先生の論文「建設コンサルタント技術者の生き残りの方策」であるとか、皆さんに興味を持ってもらえるような内容をシリーズで載せたり、自社製品の宣伝も若干は掲載している。今、連載しているのは会計検査情報というのがある。過去の会計検査の事例で、こういう設計なのに、こういう失敗をして指摘されたなど、会計検査というのは役所やコンサルの人達にとって嫌でも興味がある。この執筆を担当した方は、以前に会計検査院にいた方なのです。

ノイズレス関係の製品となると現在、排水ドレン金具やノイズレス蓋を使用した HD 可変側溝がある。可変側溝の側面に水溜りを除去する排水ドレン金具をつけ、表面部にすべりどめ模様を付けて、蓋の裏にゴムを貼った仕様になっている。これら製品の人気の度合いを尋ねると、可変側溝に排水ドレン金具を付けた製品では、金具が値上がりするなど安くはない。が、郡家コンクリートとしては排水ドレン金具の付いた可変側溝しか製造販売しないと云っている。

それとアートスラブという製品がある。これは可変側溝同様に表面にすべり止めとしてイビコンさんの四角い模様を了解を得て使っています。この種のもものは在りそうで案外少ない。県外からも引き合いがあり、大阪や神奈川方面からも引合いがあり設計に入れてもらった。これは評判も良いという。

◆特集つづきます...

それから従来、擁壁の安定計算の方法として試行くさび法というのを皆さんやっているが、私共では先にもご紹介しました工学博士右城猛先生が考案した『改良試行くさび法』を適用した擁壁を製造している。今迄の試行くさび法だと過大設計になったり、正しい数値が得られないと右城先生は言う。要するに必要以上に大きくなったり、無駄な設計をしていると言うのです。私共の擁壁は非常に薄くて他社の擁壁よりも軽い。トラックに沢山積めますし、施工現場でも扱いが楽です。基本的に他社がやらない物をなるべくやるという考え方なのです。それからスパイクウォールというのがある。この製品はブリヂストンが開発した製品で、補強土壁工法の商品。道路公団の鳥取自動車道路、北九州の現場にも納入した。販売は代理店が行い、当社では製造のみをやっている。価格競争に巻き込まれない製品で独自の方向を探る努力を図って、効率経営の追求に余念がない。

ところで、郡家コンクリート工業は、昭和 27 年 7 月に総合建設業として設立されたこおげ建設（本社、鳥取県八頭郡八頭町宮谷 200、代表＝山根英明氏）の生コン部門として昭和 46 年 5 月に設立された。こおげ建設のグループ企業としては、同社の他、八東自動車（自動車整備、板金塗装など）や、グレース（ビルテナント賃貸、ガソリンスタンド、土木建築用機械及び資材販売、土木建築工事請負、不動産販売など）、英和（住宅建築、リフォーム、宅地造成分譲、ビルテナント管理）、社会福祉法人やず（老人保健施設・すこやか、ケアハウス）やずふれあい市場（スーパー等）となっている。社会福祉法人やずの特別養護老人ホーム、やずふれあい市場については今年立ち上げばかりと言う。こおげ建設グループ企業を統括する拠点となっているこおげ建設の創業者で代表でもある山根英明氏は、永年鳥取県の県議会議員として活躍している。

会計検査情報

● 今月『公共工事と会計検査』の安藝忠夫氏からいただいた、**会計検査報告**から、具体事例をご紹介します。

公共工事の指摘事項： 橋梁の基礎地盤の支持力を誤っている

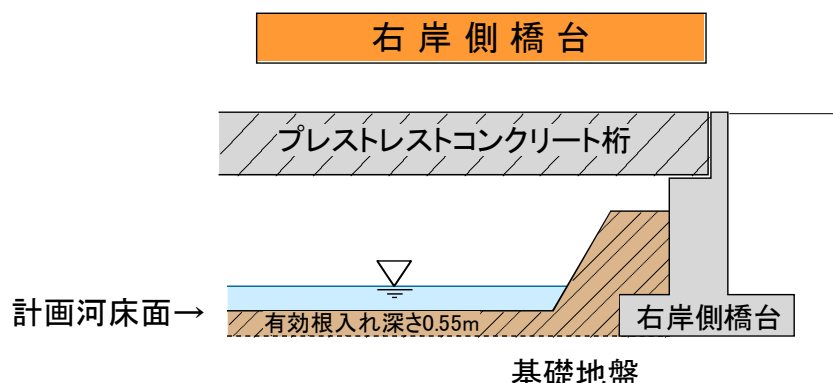
不当事項：設計不適切 工種：橋梁
 指摘箇所：基礎地盤 指摘部分：支持力

● 事業概要

県は、道路橋（橋長 21.7m、幅員 11.0m）を新設するため、橋台 2 基の築造、PC 桁の製作・架設等を工事費 8,380 万円で実施している。

● 設計

- (1) 右岸側橋台は、底版幅 3.7m、高さ 5.0m の逆 T 式橋台で、掘削地盤上に直接築造するものである。
- (2) この橋台は、次のことから安全であるとしている。
 - ① 基礎地盤の許容鉛直支持力が鉛直力を上回っている。
 - ② 滑動に対する安全率が許容値を上回っている。



● 検査の結果

- (1) 基礎地盤の支持力について
 - ① 橋台の有効根入れ深さを誤っている。
1.5 m (設計) → 0.55 m (修正)
 - ② 有効根入れ層から下の地盤の土の単位重量を誤っている。
2.0 t / m³ (設計) → 1.1 t / m³ (修正)
- (2) 滑動に対する安定計算にあたり、橋台底面と基礎地盤との間の摩擦係数を誤っている。
0.6 (設計) → 0.431 (修正)

● 安全性の検討

- (1) 支持力（地震時）

許容鉛直支持力	166 t	166	=0.29 (不安定)
鉛直力	560 t	560	
- (2) 滑動（地震時）

許容値 1.2 に対し、0.95 (不安定) となっている。

● 指摘の内容

右岸側橋台が不安定なため、この橋台及び PC 桁を指摘。

指摘額：4,230 万円




シオ
 ちゃんの製品紹介コーナー
 

◆◆◆◆ 床張りブロック ◆◆◆◆

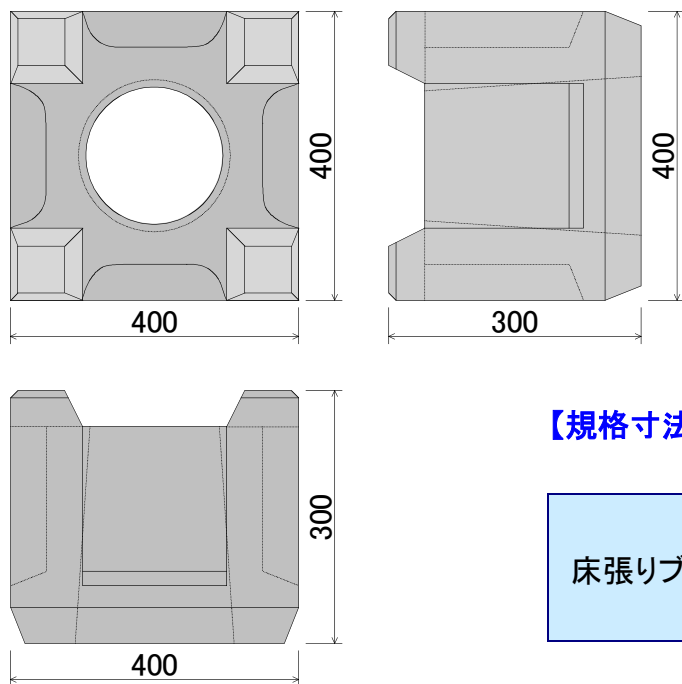
今月は根固め・護床ブロック「床張りブロック」の製品情報をお届けします。この機会にぜひご検討ください。

特 長

- 河川の洗掘防止及び縦侵食防止に用いられ、間隙からの浸透水により地下水を涵養し、河川流域の地下水位の低下を防止します。
- 表面の突起の粗度効果により、流水のエネルギーを減少させます。
- 中空部の中詰栗石(碎石)により、河川の浄化及び生物の生息を促します。
- ブロックの連結部に、間詰コンクリートを打設し結合されるので、一体化された構造を有す。
- 施工が容易で、特に山間部においては、小型車運搬等の現場条件に適応した施工ができます。



【製品図・基本型】



【規格寸法】

床張りブロック	幅 (mm)	長さ (mm)	厚さ (mm)	参考重量 (kg)
	400	400	300	64



施 工 風 景

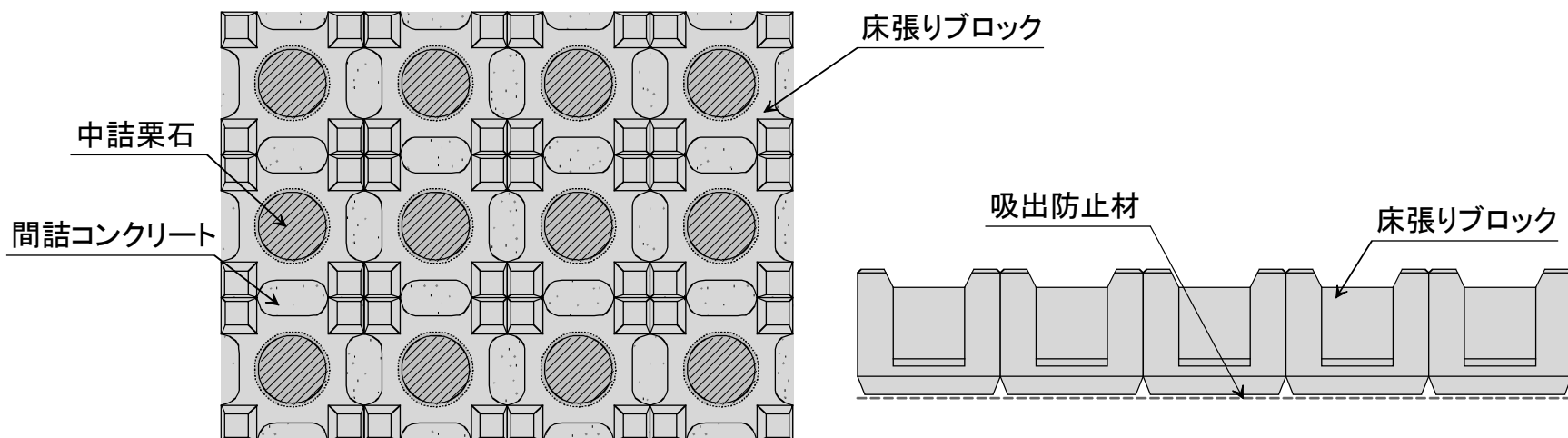
◆製品紹介コーナーつづきます…

施工方法

- 1) 河床を所定の勾配に整地し、製品を敷設する。
- 2) ブロックをクレーンで吊り上げ、河床に敷設する。
- 3) ブロック空隙に中詰栗石を充填し、間詰コンクリートを打設する。




【平面図／断面図】



【施工歩掛り/100m² 当り】

名 称	規 格	数 量	単 位	摘 要
コンクリートブロック	400 × 400 × 300	625.0	個	
世話役		3.0	人	
ブロック工		4.0	人	
普通作業員		14.0	人	
トラッククレーン	4.8～4.9t吊	1.0	日	
諸雑費		2.0	%	
計				
1 m ² 当り				

◆ 床張りブロック をご紹介しました  ◆ 次回は 新型テールアルメ をご紹介します。お楽しみに ◆

◆ さらに詳しい製品情報はホームページをご覧ください ⇒ http://www.kooge.jp/product_c2_4.asp

郡家コンクリート工業株式会社 〒680-0427 鳥取県八頭郡八頭町奥谷206-1
 TEL : (0858)72-1154 FAX : (0858)72-1614 E-mail : info@kooge.jp

◆ 製品に関するお問い合わせ☆資料請求は…

直通電話 0858-73-0500

■□ 編集後記 □■

今月は手前味噌ながら当社が『週刊ブロック通信』に取り上げられた記事を掲載しました。『週刊ブロック通信』はコンクリート二次製品を中心に扱っている権威ある業界紙で、コンクリート二次製品メーカー以外にも役所、コンサルタント等多くの購読者がいるため、これを取り上げていただくことは非常に光栄なことと思っています。連絡先はトップページに掲載したとおりですので、購読の申し込み等、お問い合わせはそちらまでお願いします。今年も残りわずかになり、実労日数は 10 日余りとなりました。何かと忙しい師走ですが、健康管理に留意してお仕事頑張ってください。(山根)

◆◆年末年始休業のお知らせ◆◆

下記の期間、年末年始休業とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

平成 17 年 12 月 30 日(金)
 ～ 平成 18 年 1 月 5 日(木)

※1 月 6 日より平常営業いたします
 来年も良き年でありますように



<URL> <http://www.kooge.jp/>

<e-mail> info@kooge.jp